

60-1364



1200501272849

1364

杯醫學講座
輯一
治療上に於ける
B
島蘭次郎著
グイタミン



始



臨床醫學講座

治療上に於けるビタミンB

東京帝國大學 島 菌 順 次 郎
教授醫學博士

- 1 -

★★★★

東京 金原商店 大阪 京都



東京帝國
大學教授

島田順次郎 講述

(不許複製)

治療上に於ける
ビタミンB
〔臨牀醫學講座 第二輯〕

株式會社
金原商店發行



島蘭順次郎博士略歴

先生は和歌山縣士族、明治十年三月生、三十七年十二月東京帝國大學醫科大學卒業、四十四年内科學研究のため獨逸に留學、大正二年岡山醫學專門學校教授となり、同四年醫學博士の學位を受く、五年京都帝國大學醫科大學教授に任じ、同十三年東京帝國大學教授に轉じ、昭和七年五月東京帝國大學評議員となり、昭和九年四月同醫學部附屬醫院々長となり現在に至る。

先生が脚氣病ヴァイタミン等に關する最高權威者なる事は餘りにも著名なる事にして、既往三十年に涉り發表せられたる貴重なる業績は三十有餘に及ぶべし。先年獨逸國伯林醫科大學に於て脚氣病ヴァイタミンに關する連續一學期間の御講演は齊に先生の榮譽たるに止まらず日本醫學のために吾々學徒の最も誇るに足るべき欣快事なりとす。

御著書に脚氣(昭和四・十二第二版)あり。

臨牀醫學講座 第一輯 目次

60-1864

消化液分泌に對するヴァイタミンBの影響	(一)
ヴァイタミンBと糖代謝	(三)
浮腫、麻痺等に對するヴァイタミンBの作用	(四)
ヴァイタミンB ₁ の呼吸中樞に對する作用	(四)
ヴァイタミンBの治療上の應用	(六)
脚氣又は潜伏性ヴァイタミンB缺乏状態の豫防	(八)
玄米及小麥とヴァイタミンB	(一〇)
精白米と胚芽米	(一一)
ヴァイタミンBと副食物	(一三)
脚氣にヴァイタミンB劑の應用	(一四)
ヴァイタミンB注射劑、内服藥	(一五)
重症脚氣の治療	(一七)
衝心脚氣	(一八)
脚氣浮腫	(一九)

脚氣以外の疾患	(一〇)
チフスと脚氣	(一一)
肋膜炎、結核性腹膜炎及肺結核	(一二)
胃腸疾患	(一三)
妊娠、産褥及哺乳時	(一四)
乳兒脚氣	(一五)
脚氣弱視	(一六)
脚氣に依る重聽	(一七)
異型脚氣	(一八)
ビタミンB ₂ の治療上の應用	(一九)
ビタミンB缺乏と食欲減退	(二〇)
會社、病院、寄宿舎の獻立	(二一)
潜伏性ビタミンB缺乏状態	(二二)

治療上に於けるビタミンB

(昭和十年七月十一日
於東京帝國大學教授室にて講演)

東京帝國大學教授

醫學博士 島 蘭 順 次 郎



ビタミンBの治療上の應用に就て話をしると云ふ臨牀醫學講座の御要求であるが、生體がビタミンBの缺乏しない状態に於て、即ちビタミンBの缺乏しない生體に之を投與して何かの作用があるかどうか多數の動物實驗がある。

消化液分泌に對するビタミンBの影響

其内で殊に消化液の分泌に對する影響に就ては、内外人の研究報告が少くない、而しながら不純なビタミンB劑を用ゐて行つたものは、其成績が果たし

てビタミンBの爲めであるか、其製剤に存在する夾雑物の爲めであるか明かでない。私の教室で柴田博士が健常犬に胃瘻を健常鶏に砂囊瘻を造り又犬に膵臓瘻を造り其當時尤も純粹に近きものであつた鈴木博士に従ひ製造せるロー・オリザニンを用ゐて實驗せるに之は動物の胃液、膵液並に唾液分泌を促進せしめ、且胃液内の總酸及游離鹽酸を増加し、蛋白消化力を増強せしむるを見た。但し犬の胆汁分泌を促進せしむることはなかつた。尙ロー・オリザニンを一五〇度に二時間加熱して、ビタミンBを破壊すると云ふと此胃液、膵液等の分泌促進作用がなくなることを認めた。それであるから此現象はビタミンBの作用に歸しなればならない。名古屋の醫化學教室で岡田氏もペリペロールを用ゐて類似の實驗をなし同一の結果に達した。

元來脚氣患者及實驗的動物並に人のビタミンB缺乏症に於て胃液、膵液等

の分泌減退し、之にビタミンBを與ふる時は、分泌増加して消化機能が良くなるものであるが、健常動物に於てもビタミンBがゼクレチン類似の作用をなし、其分泌を亢進せしむるものと見える。

ビタミンBと糖代謝

ビタミンBは又糖代謝に影響を及ぼし、之を糖尿病患者に與ふる時は血糖を減少せしめ、酵母又は種々の物質より抽出せる所謂グリコキニンがインシュリン類似の作用を呈することを述べるものが少くなかつた。余の教室にて鍋木博士が又ロー・オリザニンを用ゐて實驗をなし、家兎に葡萄糖を靜脈内に注入し、同時にロー・オリザニンを注射する時は其糖尿を減少し、肝臓内グリコゲンに轉化貯藏せらるゝことを見た。而しながらロー・オリザニンを加熱し又は吸着によつてビタミンBを除去するも同一の現象を認め、本作用はビタミン

ンBによるものでないとの決論に達した。

浮腫、麻痺等に對するビタミンBの作用

元來ビタミンB缺乏で起る重要症候は上述の消化障碍、血糖増加の外基礎代謝の減退、浮腫、末梢神経の麻痺等であるが、他の原因によつて起れる神経麻痺又は浮腫にビタミンBを與へて効果あるや否や動物實驗に於て證明せられて居ない。私共は之を腎臓病、心臟病等による浮腫又脚氣以外の多發性神経炎に試みたが確かな效を證明しなかつた。又上述の如くビタミンB劑には實驗的に糖尿を減退せしむる作用を認めたから之を糖尿病患者に應用して見たが、著しき効果を認め得なかつた。又慢性胃加答兒等による食慾障碍に之を用ゐたこともあつたが、之亦明かなる効果を認むるに至らなかつた。

ビタミンB₁の呼吸中樞に對する作用

面白いことはビタミンB₁の呼吸中樞に對する作用である。一九二三年鈴木氏はビタミンB劑は呼吸中樞に對し亢奮作用を有することを發表したが、當時使用せられたB劑は尙不純のものであつた、最近私共の教室で、平田、尾中兩氏は白鼠實驗に於て、モルヒン中毒性呼吸麻痺に對し、ビタミンB₁（大嶽氏製出オリザニン結晶）が顯著なる效を呈し、其注射によりて、呼吸の振幅著しく増大し、又整調となることを認めた。尙白鼠にビタミンB₁を與ふる時は、モルヒン致死量に堪え、永く生存せしむることが出來た。此實驗成績によつて、モルヒン類其他の中毒或は疾病による呼吸麻痺に對して、ビタミンB₁が效を呈することあるものと思はるゝが未だ臨牀的に應用するには至らない。

之を要するにビタミンB缺乏によらざる疾病狀態に對して、臨牀的にビタミンBを與へて格別の效力を呈する場合ありや否や今日の所では未だ不明で

ある。之は尙研究を要するものと思ふ。それであるから本劑の應用はビタミンBが缺乏した場合又は缺乏の虞ある場合に限られて居る。

ビタミンBは御承知の通りビタミンB複合體と名づけられ、ビタミンB₁、B₂、B₃、B₄等を區分されて居るが、其中で確かなものはビタミンB₁、即ち抗神經炎性のビタミンとビタミンB₂とである。ビタミンB₂は又之をビタミンB₂複合體とも名づけられて、其中に生長促進性と抗ペラグラ性或は皮膚炎性等を區分する人があるが、最も確かなものは生長促進性のものであつて、此生長促進性ビタミンB₂とビタミンB₁即ち前に述べた抗神經炎性のものは化學的成分も明らかになつて居る。ビタミンB₃、B₄等は尙確かなものは言へない。

ビタミンBの治療上の應用

我々がビタミンBを治療上に應用して居るのは主に此抗神經炎性即ちビタミンB₁であるが、普通ビタミンB複合體として之を用ゐて居る。其他の場合には抗ペラグラ性作用としてビタミンB複合體を應用せらるゝことがある。

ビタミンB缺乏の場合に起る疾患としては申すまでもなく脚氣である。然し本邦人には假令脚氣が起らなくつても潜在性のビタミンB缺乏状態が少なくないと思はるゝから諸種の疾病の治療に當つては大いに此點を顧慮しなくてはならぬ。先年流感の非常に流行した時に其經過中に著明な脚氣麻痺が起つた例が甚だ多かつた。又最近私の教室に入院した肺炎患者で、之は入院時には著明な肺炎症状があり、毫も脚氣症候を認めなかつたが、重症の爲めに殆んど食物を攝取しなかつた。然るに入院後四―五日にして著明な脚氣症状が現はれ、足に強い麻痺が起つて來た。かう云ふのは發病前に既にビタミンBが不充分で

あつて、それに流感に罹り又肺炎を起し高熱を來した爲めに、斯く速かに脚氣
症狀が起つて來たのであつて、發病前に既に身體にビタミンBが不充分であ
つたものと考へなくてはならぬ。腸チフス等にも斯様な場合が少なくない。か
う云ふのを私は前年脚氣豫備狀態と名づけたが、又潜在性ビタミンB缺乏狀
態と名づけても宜しい。近年歐米に於ても亦潜在性ビタミンB缺乏を注意す
るものが少くない。歐米には普通脚氣患者を見ないのであるが之等の人は潜在
性ビタミンB缺乏狀態を認めて居る。

脚氣又は潜在性ビタミンB缺乏狀態の豫防

脚氣又は潜在性ビタミンB缺乏狀態の豫防に就て最初に一言したいと思ふ
が、ビタミンB殊にB₁は精白した穀物、即ち精白米、精白麥及小麥粉等には
極めて少量しか含有されて居ない。又普通我々が食用に供する獸、鳥、魚肉、

種々の野菜物及果實等にも甚だ少いものである。それであるから我々が白米飯、
麥飯、白麩麵等を主食とし、副食物として動物性の肉類及野菜物、果實等を相
當多量に食して居つてもビタミンB₁は充分とは言へない。かう云ふ風な場合
にはビタミンB₁の缺乏狀態に陥る虞れが甚だ多い。潜在性のビタミンB缺
乏狀態となり、更に何かの誘因が加はつて脚氣を起すに至るものである。

本邦人は主に白米飯を主食として居るものであるが、之には殆どビタミン
Bを含有しない、それであるから我々は過精白の穀物を攝ることを止めて其主
食物にビタミンBの缺乏がない様にしなくてはならぬ。それにはどうすれば
いゝかと云ふと玄米飯或は小麥の全穀粉より作れる麩麵を食すれば、副食物は
如何様であらうともビタミンBは充分である。然し玄米を食すると云ふこと
は味覺の點に於て現在の日本人に之を普及せしむることは困難である。又高壓

釜で炊いた場合には味はいくらかよくなるがビタミンBが高温度の爲めにどれだけ破壊されるか不明である、玄米には多少消化不良の缺點もある。

玄米及小麥とビタミンB

一方に於ては玄米及全小麥粒の中に最も多くビタミンBを含有する部分はその胚芽である。之に就ては本邦では異論を唱ふる人もないではないが、それは正確な實驗を経て居るかどうか疑はしい。試みに玄米から胚芽を全部取り去り外皮を保存せるものを以て鳩を飼養すれば鳩はビタミンB缺乏症に罹かる。之にビタミンB₁を與ふれば速かに治癒する。然るに胚芽を持つて居ない普通の精白米に、玄米に含有されて居る胚芽の量と同じだけの分量即ち三%の割合に胚芽を加へて鳩を飼養すると云ふと鳩は長い間健康を保持し、ビタミンB缺乏症に罹かることはない。

更にビタミンB缺乏症に罹かつた動物でも此白米に胚芽を加へたものを以て養へばそれが恢復に赴く。玄米でも胚芽を取り去ればB₁は不充分であるから半搗米でも七分搗米でも胚芽のないものはビタミンBが不充分であることは云ふまでもない。それであるから我々が脚氣或はビタミンB缺乏状態を豫防する爲めには胚芽の保存した米、所謂胚芽米を食さなくてはならぬ、之にはさう云ふ米は五分搗米でも七分搗米でも九分搗米でも宜しい。

精白米と胚芽米

近年は精白の方法が進歩して全然普通の精白米と同じ程度に搗精せられ而も八〇%以上胚芽を保存する胚芽米も出来て居る。かう云ふもので實驗して見ても之にはビタミンB₁の缺乏はない、之を要するに我々はビタミンB缺乏を豫防する爲めにはそれは半搗米でもあり、七分搗米でもあり、或は精白米であ

つても宜しいが兎に角八〇%以上胚芽の保存した米を食することが必要である。麥飯は米に三割、五割の割合に精白麥を加へたものでもビタミンBは充分でない。麩麵も白麩麵にはビタミンBは至つて少ないのであるから普通の小麥粉に全穀粉を三〇%以上附加した黒麩麵所謂グラハムパンを用ゐなくてはならぬ、本邦で販賣して居る黒麩麵は多くは普通の白麩麵を色素で染めたものである。

陸軍では從來三割の割合に麥を加へた麥飯を兵食として居つたが、其當時兵士に脚氣は少くなかつた、又日露戦争の際には兵士に多數の脚氣患者發生し其數十萬にも達した、然るに近年兵食を改良し胚芽米に三割の比で、精白麥を加へた麥飯にした爲め、兵士に脚氣は殆どなくなり、又滿洲出征の軍隊にも脚氣は稀であると云ふことである。

斯様に胚芽を保存した米を常食にすれば副食物は如何様であつてもビタミンBの缺乏を來す虞れはない。

ビタミンBと副食物

尙ほ我々が用ゐる副食物の中には大豆、其他の豆類とか或は動物の肝臓であるとか卵黄（卵白にはビタミンB₂はあるがB₁は殆どない）であるとか云ふ様にビタミンB₁の比較的多量に含有されて居るものがあるが、それ等に就ては一々茲に述べない。之は種々のビタミン或は榮養に関する書物の中に表として擧げられて居るから一々述べる必要はないと思ふ。唯國民一般の食事としては、斯様なビタミンBの多い副食物で以て白米主食によるビタミンBの缺乏を補ふことは困難であるから、主食物即ち米飯にビタミンB缺乏のないことを原則としたい。

脚氣にビタミンB劑の應用

次に脚氣に於けるビタミンB劑の應用に就て述べようと思ふ。軽い脚氣であれば強いて薬品を用ゐる必要はない。食物を改良してビタミンBを豊富にする。其内でも前述の通り胚芽を多數保存した米飯を攝らしむれば一―二週間の中に脚氣症狀が漸次良好に赴くものである。而し稍々重症になると云ふと食物の改良と同時に特種のビタミンB劑を與へることが必要である。ビタミンB劑としては本邦には非常に多數の製劑が販賣されて居るが、之等の製劑がどれだけのビタミンB或はビタミンB₁を含有して居るかを檢定することは必要である。日本藥局法に於ても其檢定法を規定することが必要であると思つて居るが、未だそこまではゆかない。國際聯盟ではビタミンBの檢定法を定めて標準を立て、居る。私は今こゝにビタミンB₁の檢定法に就て述べること

を差控へるが、兎に角本邦に發賣されて居るビタミンB劑は殆ど皆どれだけのビタミンが含有されて居るか不明である。我々が脚氣にビタミンB劑を用ゐるに當りては充分に效力のある分量を與へねばならぬ。然るに普通販賣して居る之等の製劑の中で其注射に用ゐるものはビタミンBの分量が至つて少い。私の教室で數年前に檢査した所によると其多くは一筒を注射して鳩の白米病を治癒し得たに過ぎない。中にはそれさへ不十分なものもある。かう云ふ風な製劑を一筒位人間に注射しても何の效力もないことは明かである。鳩の體重から計算して見ると鳩の體重を三〇〇瓦、人間の體重を六〇瓦とすれば、人間は鳩の二〇〇倍に當る。體重の割合を以てすれば、かう云ふ風なものは大人には二〇〇本注射しなければならぬ譯である。

ビタミンB注射劑、内服藥

注射劑として效力の強いものは三共の十倍強力オリザニンである。之であれば其二—三ccを注射すれば效力を認め得る。最も效力の強いのは申す迄もなくビタミンB₁の結晶であつて、是は本邦では東大農學部の鈴木教授指導の下に大嶽博士が結晶として抽出された。之は純粹なビタミンB₁(オリザニン結晶)であるから最も效力が強い。私共は鈴木、大嶽兩氏の厚意により分與せられたものを人間の脚氣に使用して極めて少量で效力を認めた。此治效によつて脚氣の主因はビタミンB、特にビタミンB₁の缺乏に依ることが明かとなつた。此結晶は採取に非常な努力を要するものであるから、未だ日常の臨牀に用ゐることは出来ない。經口的に投與するビタミンB劑は之を充分なる量に與ふれば著效を認めることが出来る。私共が古くから使用して居るオリザニンエキスは一日に一〇乃至二〇瓦位水に溶かして用うれば速かに效を認め得る。之が多

量で飲み難い場合或は贅澤な人には前に述べた十倍強力オリザニンを經口的に與へてもよい。一日量二—四ccである。エビオスも一日に一〇乃至二〇瓦用うれば效を認め、アマターゼも私共の所で實驗したものは大體エビオスと同一の效を認めた。其他の製劑も適當の量に用うれば效を奏するものと思はれる。糠の水エキスも亦效を奏するものであるが、糠の一日量は一〇〇乃至二〇〇—三〇〇瓦を用ゐなくてはならぬ。

重症脚氣の治療

非常に重症の場合で衝心に近い様な状態には經口的では間に合はないから注射によらなくてはならぬ。之は皮下でも靜脈内でも宜しい。私共は普通さう云ふ場合には十倍強力オリザニンを一回に二—三ccを注射する。昨年ドイツのバイエル會社からビタミンB₁の製劑を持つて來て試用を頼まれたが、之は

一アンブルに二cc入つて居つて四〇〇國際單位のビタミンB₁を含有して居るのであるが、十倍強力オリザニンに比して少し効力が弱い様であるが大體同じであつた。

衝心脚氣

衝心の場合にはビタミンB劑が效力を呈しない中に死亡する様なことがあつて、其他の藥品を併用する必要があるが、さう云ふ場合には硝酸ストリキニールネ（一回量〇・〇〇二—〇・〇〇三）の溶液や、ピタカンファー（五—一〇cc）等を注射するのが宜しい。之等によつて循環や呼吸作用を助けて居る内にビタミンB劑の効力が現はれて輕快に赴くものである。尤も近年では脚氣衝心が非常に減少して私共がかう云ふ風な治療を試みる事が少くなつた。

相當に重症な脚氣患者も上述の様にビタミンBの多い主食物を與へ、尙ほ

ビタミンB劑を投與すれば漸次に輕快に赴いて、後には藥品を用ゐずともビタミンBの多い食物だけで治癒に赴くものである。

ビタミンB劑を脚氣患者に與ふるには上述の如く注射用としては精製したものを用ゐる又經口的には精製品でなくとも多量に用ゐることが必要であるから藥品として價格が高くなる。脚氣は貧民に多いから廉價な製劑を得ることが望ましい。又製劑にはどれ程のビタミンB₁を含有して居るか一定の標準によつて之を表示することが望ましい。

脚氣浮腫

脚氣にして浮腫の多い場合にはビタミンBの外に利尿劑を與へることも良い。それには最もよく效くのは矢張りサリルガン、ネルケガンの様な水銀劑である。

脚氣以外の疾患

次に脚氣以外の種々の疾病に於けるビタミンBの應用に就て述べようと思ふ。此場合に於ても初めに述べた通り、それ等の疾病そのものに對するビタミンBの效力でなくて其疾病の場合にビタミンBの缺乏がない様に努めることである。第一にチフス、肋膜炎、肺結核等の熱のある患者に就て一言するが、總て熱のある場合にはビタミンBの多量を要する。之は教室の田坂博士が正確な實驗によつて證明した所である。それであるから之等の病氣の場合にはビタミンBの缺乏に陥る虞れが甚だ多く、假令脚氣症狀を現はすに至らなくても、食事中にビタミンBの缺乏があれば疾病に悪影響を及ぼすものである。腸チフスの場合には従前から非常に制限した食事を與へ、牛乳と重湯或はお粥、魚、梅干の様なものを與へるが、斯様な食事では假令健康人でもビタミンB

の缺乏が起る。況や熱のある場合には之を來し易い。

チフスと脚氣

従來チフスの場合には脚氣を合併することが甚だ少くなかつた。之は食事の不完全なることと、熱があると云ふ二つの理由によるものである。又腸チフスそのものが時として多發性神経炎を起すものであるから、其毒素と脚氣による神経損傷とが相加重して麻痺を起し易いのである。我々の傳染病室でも七—八年前まで、白米を用ゐて居つた時代にはチフスに脚氣の合併することが甚だ多かつたが、病院の食事を胚芽米に変更して以來、腸チフスに脚氣の合併することとは殆ど全く無くなつた。尙先年來白米時代と胚芽米時代の腸チフスの轉機の統計を取つたことがあるが、胚芽米時代になつて脚氣合併の稀になつたのみならず、腸チフスの死亡率が明かに減少した。

肋膜炎、結核性腹膜炎及肺結核

又肋膜炎、結核性腹膜炎、肺結核等の場合には之は腸チフスと異つて種々の食品を多量に攝らせるものであるが、此場合に白米飯を取つて居ると、矢張りビタミンBの缺乏を來す虞れがある。それであるから主食物を改良し、或はそれが困難である時にはビタミンBの缺乏を補充する爲めにビタミンB劑を與へることが必要である。

胃腸疾患

又熱がなくても胃腸病等で非常に制限した食事を攝つて居る様な場合に、例へば牛乳と重湯、梅干と云ふ様な食事を攝つて居る場合に、ビタミンBの缺乏を來し易い。牛乳にはビタミンBもないではないが含有量は少ない。かう云ふ時には無論ビタミンBだけではなく、他の栄養素にも不十分な所がある

が、人間は殊にビタミンB缺乏に敏感であるから、第一に之を補充することに努めなくてはならない。經口的に與へることが出来る場合にはそれでも宜しいが、或は又注射によつて補充しても宜しい。

ビタミンBの缺乏は身體の細菌感染に對する抵抗力を減退し、免疫物質の生成を弛緩ならしめ、又組織の再生力を減退せしむるものであるから、かう云ふ風な疾患の場合にビタミンBが不充分なる時は常に脚氣合併の虞れがあるのみならず、假令脚氣症狀が現はれなくても疾病の治癒を遷延せしむるものである。

妊娠、産褥及哺乳時

次には婦人の妊娠、産褥、哺乳等の場合であるが、之等の時には平常よりも多量のビタミンを要する。殊に哺乳時には平常に比して數倍のビタミンB

を要することは教室の香川博士も證明した所である。我々は屢々産褥時に重い脚氣麻痺を起すことを見る。又哺乳時には屢々母體に脚氣を來し或は母體の脚氣症状は著明ならざるも、子供に乳兒脚氣を來すことが甚だ多いものである。かう云ふ場合には特にビタミンBの缺乏がない様に注意しなくてはならぬ。之は前述の食物の改良、或はビタミンB劑の投與によらなくてはならぬ。

乳 兒 脚 氣

乳兒脚氣の場合には母親の食物を改良し、之にビタミンBの多い食物を攝らしめ、又はビタミンB劑を投與するのは良いことであるが、之は直接ではないから一方に於てはさう云ふ處置を取ると共に他方に於ては子供自身にビタミンB劑を與へるべきである。私共は乳兒脚氣に就ては經驗が少いが、小兒科醫師の意見によると、さう云ふ處置を取れば必ずしも母體の哺乳を止める必

要はないと云ふことである。

脚 氣 弱 視 (軸性視神經炎)

次には脚氣弱視の治療に就て一言したいと思ふ。脚氣弱視と云ふものは從來脚氣によつて起るものと考へられて居つたが、又異論を唱ふる人もあつた。何故に異論を唱ふるかと云ふと、脚氣弱視を呈する場合に身體的には脚氣症状は至つて少く、或は殆ど之を認むることの出来ないものが少くない。殊に婦人の哺乳時に起る軸性視神經炎は、此脚氣症状を認め難いものが甚だ多い。之等の理由によつて脚氣弱視と云ふものは、果して脚氣によるものであるかどうか、疑はれても無理はないのである。然るに先年石原教授の好意によつて、香川博士が多數の脚氣弱視を観察し、之に對するビタミンB劑の効果を検査した所が、皆其效を認めた。尤も脚氣弱視の進行したもの、或は陳舊性のもものは、他

の脚氣神經麻痺と同様にビタミンB劑によつて急速には效を示さないものもあるが、軽いもの、新鮮なるものは速かに治癒に赴くことが認められた。

脚氣に依る重聽

又東大耳鼻咽喉科教室に於て増田教授指導の下に佐藤博士等は脚氣重聽を觀察したが、之もビタミンB劑によつて同様に治癒に赴くことが認められた。かう云ふ風にビタミンB缺乏の場合に普通の脚氣が起らないで特種の誘因によつて視神經が冒され、或は聽神經が冒されることもあるものである。

異型脚氣

尙ほ又脚氣患者にして他の症狀が餘り著明でないのに失調が特に現はれることがある。かう云ふ場合には下肢の他動的運動の感覺、即ち深部感覺が冒されるものである。屢々此視神經、聽神經並に平衡障礙の三つが併合して來ること

がある。私共は之を異型脚氣と名づけて居る。かう云ふものは比較的頑固であるが、ビタミンB投與によつて皆輕快せしむることが出来る。

ビタミンB₂の治療上の應用

次にビタミンB₂の治療上の應用に就て一言したいと思ふ。ペラグラがビタミンB複合體を與へて治癒することは前述の通りであるが、ビタミンB₂の中で最も確實に認められて居るものは、抗ペラグラ性ビタミンよりも抗發育促進性ビタミンである。此發育促進性ビタミンB₂は動物實驗では確かに證明せらるゝものであるが未だ治療上には應用されるに至らない。人間でビタミンB₁が充分であつて發育促進性ビタミンB₂が缺乏して居る場合があるかどうか、或はビタミンB₁のみ缺乏した場合とB₁と同時にB₂が缺乏した場合とは相異つた症候が起るかどうか、それ等の點に就ては尙ほ研究中である。唯東大

眼科の竹田氏が石原教授指導の下に本邦に特に多い瀰蔓性表層角膜炎がビタミンB₂を與へて治癒することを證明し、又家兎に就て實驗しビタミンB₂の缺けたものを與へて之を惹起することが出來た。

ビタミンB缺乏と食慾減退

こゝにビタミンB缺乏と食慾減退に就て少しく述べたいと思ふ。色々の部分的栄養障碍殊にビタミン缺乏によりて栄養衰へ體重減少し、幼弱なる動物の發育は障碍せらるゝものであるが、之はビタミンA缺乏でもB或はCの缺乏でも同様である。即ちビタミンA缺乏食を以て白鼠を養ひ、或はビタミンB缺乏食を以て鳥を、ビタミンC缺乏食を以てモルモットを飼養する時は遂には皆食餌攝取量の減退を來すものである。而し此際食慾減退の最も顯著なるはビタミンB缺乏食である。鳩をビタミンB缺乏食で飼養する時は二―

三週間で其食物攝取量著しく減少し、然る後遂に麻痺又は平衡障碍を起すに至ることは實驗者の始終目撃する所である。之は鼠、家兎、犬、猫、猿等の哺乳動物でも同様である。實驗的人ビタミンB缺乏食でも通常最も早く食慾障碍を惹起する。私は大正十三年之等の鳥類、哺乳動物及人ビタミンB缺乏症に於ける觀察を綜合して次の如く述べた。

ビタミンB缺乏症は鳥類、哺乳動物及人類に共通の疾患であつて、其最も著明な共通の症候は食慾減退、消化障碍及末梢神経の麻痺である。さうして食慾減退の發現は飼養の方法によつて遅速あり、ビタミンB缺乏の高度なるもの即ち當時急性と名づけたものには急劇に起つて來るが、缺乏度の輕きもの即ち慢性には緩慢に來る。尙ほ食慾減退して米飯其他與へられた食物に對して嫌惡の念を起し遂に嘔氣、嘔吐を來すことがある。之等の實驗的ビタミンB缺

乏症に於て多くは食慾減退が第一に起つて来る。此食慾減退は單に白米食の如き變化なき食事によるものでないことは、かゝる場合にビタミンBを投與すると云ふと、極めて速かに食慾恢復し同一の食餌を續くも食物攝取量著しく増加すること、又本邦人が常食とする食餌と同一のもので日々變化のあるものを與へて居つても此食餌にビタミンBが缺乏する時は同様に食慾障礙が起つて來ることによつて明かである。

ビタミンB缺乏の場合に食慾減退することは歐米の研究者によりても觀察せられたけれども、初めは之に重きを置かず、従つてこのビタミンを抗神經炎性及發育促進性として説明した。然るに近年シュワー等は又之を食慾促進性ビタミンとも命名して居る。

このビタミンB缺乏食による食慾減退は人實驗で最も著明に現はるゝもの

である。之は外國で實驗せられたものは稀であるが、本邦に於ては甚だ多く觀察せられた。私の教室では其實驗數は二七例を數へて居る。今此人ビタミンB缺乏症に於ける食慾減退の状態を二—三の例に就て示さうと思ふ。

第一に最も簡単な食餌を以て養つたものを舉げると、それは白米飯に福神漬、鹽昆布、漬物等を加へて養つたものである。今之をもつて健康な人間を養ふとすると二—三週間で被験者は食慾甚しく減退し、嘔氣を覺え時には下痢をも來すことがある。之は甚だしい偏食でビタミンBのみならず、A、C、D等の缺乏があり又蛋白、鹽類等も充分でなく、且つ單純なる食餌を日々反覆するのであるから其影響もないとは言はれない。而しかゝる状態で副食物を變更して他種のものとしても其の爲めに食慾を良好ならしむることは出來ない。唯ビタミンB劑を與へると云ふと忽ちにして食慾佳良となり、同一の食餌を續くる

もよく之を食した。又此場合にビタミンA、C等を與ふるも食慾の上に著しい影響を及ぼさなかつた。それであるから此食慾減退は他のビタミンの缺乏又は偏食の爲めでなくて主としてビタミンBの缺乏によるものである。

會社、病院、寄宿舎の獻立

更に複雑な獻立を使つて本邦人が普通の食餌と類似したもの、即ち會社、寄宿舎の食餌とか、病院の食餌等を用ゐる、主食物を精白米とすると皆ビタミンBの缺乏がある。之を以て健康人を養ふとすると一乃至數ヶ月の中には食慾減退を起し、更に之を續ければ體重減少、浮腫、感覺鈍麻等を來す様になる。之等の食餌を以て人を養つた場合に通常第一に食慾減退を訴へる。さうして之を來すに至る日數は食餌の種類によつて長短があつてビタミンB缺乏度の輕きものは一般に長時日を要する。又同一の食餌を用ゐても個人によつて相違があ

病院食餌獻立表

秋季 分量(瓦)		冬季 分量(瓦)			
日/時	年五二九一 日一十二月十	日七十二月十	日六十二月十	日五十二月十	年六二九一 日八月一
朝	白米飯 四三 味噌汁(葱切麩) 一四 澤庵 三	白米飯 四三 味噌汁(豆) 一七 澤庵 元	白米飯 四三 味噌汁(豆) 一七 澤庵 元	白米飯 四三 味噌汁(豆) 一七 澤庵 元	白米飯 四三 味噌汁(大根) 一七 澤庵 三
晝	白米飯 四三 ユシチ(牛馬鈴薯肉) 三三 菜漬(玉葱) 三	白米飯 四三 味噌汁(魚) 一七 菜漬 三	白米飯 四三 味噌汁(豆) 一七 澤庵 元	白米飯 四三 味噌汁(豆) 一七 澤庵 元	白米飯 四三 味噌汁(大根) 一七 澤庵 三
夕	白米飯 四三 鳥賊馬鈴薯 二九 澤庵 三	白米飯 四三 味噌汁(魚) 一七 菜漬 三	白米飯 四三 味噌汁(豆) 一七 澤庵 元	白米飯 四三 味噌汁(豆) 一七 澤庵 元	白米飯 四三 味噌汁(大根) 一七 澤庵 三
朝	白米飯 四三 味噌汁(葱切麩) 一四 澤庵 三	白米飯 四三 味噌汁(豆) 一七 澤庵 元	白米飯 四三 味噌汁(豆) 一七 澤庵 元	白米飯 四三 味噌汁(豆) 一七 澤庵 元	白米飯 四三 味噌汁(大根) 一七 澤庵 三
晝	白米飯 四三 ユシチ(牛馬鈴薯肉) 三三 菜漬(玉葱) 三	白米飯 四三 味噌汁(魚) 一七 菜漬 三	白米飯 四三 味噌汁(豆) 一七 澤庵 元	白米飯 四三 味噌汁(豆) 一七 澤庵 元	白米飯 四三 味噌汁(大根) 一七 澤庵 三
夕	白米飯 四三 鳥賊馬鈴薯 二九 澤庵 三	白米飯 四三 味噌汁(魚) 一七 菜漬 三	白米飯 四三 味噌汁(豆) 一七 澤庵 元	白米飯 四三 味噌汁(豆) 一七 澤庵 元	白米飯 四三 味噌汁(大根) 一七 澤庵 三

紡績工場寄宿舎献立表 (一人一日宛)

日 四 第	日 三 第	日 二 第	日 一 第	
澤出麩葱味 庵し雑 漬魚 噌 六若〇八七 五千五美六	澤出水味 庵し雑 漬魚菜噌 六若〇七 五千三三	澤出干大味 庵し雑 漬魚鮓根噌 六若五〇七 五千四二六	澤出大味 庵し雑 漬魚根噌 六若〇七 五千三三	朝 (毎)
澤砂胡味水 庵し雑 漬糖麻菜 六若〇四 七千七三	澤砂醬出油豆午葱 庵し雑 漬糖油魚揚糟芽 六若〇六 四千二八〇	澤砂醬出蒜蓮里 庵し雑 漬糖油魚薯根芋 六若〇六 四千二八〇	澤砂醬出蓮鶏 庵し雑 漬糖油魚根豆 六若〇七 四千三三	昼 (毎)
澤砂醬凍午牛 庵 豆 漬糖油腐芽肉 六若〇七 四千二八〇	澤醬葱豆あ 庵 な 漬油 腐心 六若〇八 四千二八〇	澤砂醬出水蒲 庵し雑 漬糖油魚菜鈴 六若〇七 四千二八〇	澤酢出味葱油 庵し雑 漬魚噌 揚 六若〇七 四千二八〇	夕 (毎)
白米一日一人平均 四・〇合	澤出麩大味 砂し雑 漬魚 根噌 六若〇九 五千三三	澤出麩豆味 砂し雑 漬魚 腐噌 六若〇九 五千三三	澤出大味 砂し雑 漬魚根噌 六若〇七 五千三三	朝 (毎)
	澤砂醬出午昇蠶 砂し雑 漬糖油魚芽布豆 六若〇八 四千二八〇	澤砂出味蒜 砂し雑 漬糖油魚噌薯 六若〇四 四千二八〇	澤醬出甘油大 砂し雑 漬油魚薯根根 六若〇七 四千三三	昼 (毎)
	澤醬大生 砂 漬油根腐 六若〇五 四千二八〇	澤醬酢妙出凍午干蓮む 砂し雑 漬油 糖魚腐芽瓢根み 六若〇二 四千二八〇	澤砂醬出蓮里竹 砂し雑 漬糖油魚根芋輪 六若〇七 四千三三	夕 (毎)



つて、早く之を來す者と長時日を要する者とあるのは體質の相異と攝取食量の多少によるものであらう。又ビタミン缺乏の程度輕きものは長き實驗中一時食慾減退を來し、攝取量減少するが後自然に恢復し、數週の後に再び之を起し、さうして最後に著明な食慾減退に伴つて他のビタミンB缺乏症狀の發現するものがある。尙ほ又ビタミンB缺乏の程度輕い場合には輕度な食慾減退を反覆するも著しいビタミンB缺乏症狀を起すには至らないものである。

近年歐米殊にアメリカに於て此點に注意する者が少くない。アメリカに於ける近年の食餌にはビタミンBが不充分で其の爲めに子供に食慾減少を來し、又神經質、大便秘結、其他の消化障礙を起し得ることを注意した。アメリカ人の食餌は所謂麩麵、肉、馬鈴薯、砂糖食餌であつて、之は充分な牛乳、卵、果實、胡桃、野菜等で補充せられなければビタミンB缺乏が起り得る。馬鈴薯

にはビタミンBが比較的多いが、アメリカ人は其攝取量少いと云ふことである。イギリスのプリンマーも英國人の食餌にはビタミンBが少いことを指摘して居る。

アメリカ小兒科醫者パーレットはモリスタウンに於て外來小兒患者一四七一人の中で三四九例即ち二四％は食慾消失を主訴として來た。其中一二一例即ち三五％には之を來すべき特別の原因を認めず、食餌療法で速かに輕快した。此慢性食慾減退の最良の療法は新鮮な羊の肝臓、ビフテキ及子羊の腎臓等を與ふることである。さうして肝臓に存在する食慾促進物質は肝油の中にはないと述べた。此報告に基いてシュワーはそのビタミンに關する著述に於て肝臓、腎臓にはビタミンB₁及B₂を多量に含み、ビフテキはB₂を多量に含有するから斯様な食慾促進作用を呈したものと述べて居る。

京都の三宅宗詮氏は昨年五月の實驗醫報に幼兒のビタミンB缺乏症に就てと題して二歳五ヶ月より三歳八ヶ月に至る幼兒五例に就ての觀察を報告し、皆食慾不振、嘔吐、腹痛、或は軟便あり、無氣力、嗜眠を呈し神経性或は習慣性嘔吐と診斷せられ、他に脚氣症候はなかつたがビタミンB劑を與へた所が全治した。さうして家庭の食餌を調査せるに全部幼兒に白米食を與へて居つたと云ふことである。

前述の通りビタミンBはB₁、B₂を區分せらるゝが、此食慾減退はB₁の缺乏によるか、又はB₂の缺乏によるものであるか、二—三の實驗者は居るが、B₁が最も關係があると述べて居る人と、B₁とB₂と共に關係すると述べて居る人がある。私の教室でも數年來鼠を用ひてビタミンB₁或はB₂の別々に缺乏した状態を觀察して居るが、ビタミンB複合體の缺乏した食餌及B₁の缺乏した食餌で

は著明な食慾減退を來した。B₂ 缺乏食で養つたものは食量が多少減少するが前者の様に著明でないことを認めた。即ちB₂の缺乏にても遂には多少の食慾減退を來すが高度のものはB₁の缺乏に基づくものである。

私共の教室では又此點に就て人體實驗を行ひ、一方に於ては不完全食試養の爲めに起つた障礙に對するビタミンB₁結晶投與の影響を検し、他方にはB₂は存在し、B₁のみ缺乏した食餌で健康人を養つて其症候を観察した。不完全食とは前實驗に述べた様に白米飯に極めて單純な副食物を加へたものであるが、此食餌で速かに顯著な食慾障礙を來した時にビタミンB₁結晶を注射した所が食慾が頓に恢復した。

ビタミンB₁缺乏食としては前述の會社、寄宿舎等の食餌にB₂を補充する爲めに卵白を加へたものを使つたが、此食餌で養つた人は十週位で食慾減退を訴

へたが軽度であつて、前の例の様に高度には至らなかつた。

又一時之を起しても自然に輕快し、後再び之を來したのもあつた。然しながら試食一八—九週にして著明な食慾減退を來したから之にビタミンB₁結晶を與へたるに食慾は速かに恢復した。之等の實驗によつてビタミンB複合體の中でビタミンB₁が最も食慾に關係のあることを認め得た。

之等の實驗でも示す様に本邦人で白米を主食とする者にはビタミンB複合體又はB₁缺乏の爲めに脚氣症候を起すに至らなくとも食慾減退を訴ふる者があるかも知れない。かう云ふ者にビタミンB複合體又はB₁を與へて其食慾不良を治癒せしむる場合があり得ること、思はるゝが、尙研究を要する。尤も白米飯を胚芽米に變更して以來食慾がよくなつたとか、便通がよくなつた、腹具合がよくなつたとか謂ふことは常に聞く所である。

潜伏性ビタミンB 缺乏状態

最後に潜伏性ビタミンB 缺乏状態の場合に何か格別の徴候を呈するかどうか、尙ほ不明であるが私共の所見を二三述べてみたいと思ふ。尤も潜伏性ビタミンB 缺乏状態の様に見ゆるもの、中には既に多少の脚氣症状を示して居るのがある。よく見ると云ふと下腿に軽度の浮腫があり脚の腱反射が亢進し、或は膝蓋腱反射は尙ほ存在するもアヒレス腱反射が弱くなり、又は既になくなり、軽い感覺障碍が下腿足背部にある。斯かる状態にても患者自身がまだ病感を起こさず健康と思つて居るものがある。かう云ふのは潜伏性ビタミンB 缺乏状態とは言はれない。之は既に軽い脚氣症状が起つて居るものである。眞の潜伏性ビタミンB 缺乏状態と云ふのは之等の脚氣症状が未だ全く現はれない場合を言はなくてはならぬ。かう云ふ時に何か身體に違和があるかどうか、例へ

ば食慾減退があるとか、便秘があるとか、最低血圧の下降があるとか、或は身體が懈いとか云ふ様なことがあるかどうか、斯様なことは健常と思つて居る人に夏期等によくあるものであるが、之が潜伏性ビタミンB 缺乏の徴候といふべきや否やは未だ不明である。或は全部さうでなくとも其一部にはビタミンB 缺乏に基づくものがあるかも知れない。否あるであらうと思はるる。

我々が實驗的にビタミンB 缺乏食を與へると前述の通り人でも動物でも容易く食慾の減退が起る、又下痢時には便秘を來すこともある、又被験人は身體が懈いことを訴へる、尙ほ速かに最低血圧の下降を來す、而も其他の心臟の變化、神経症状等の脚氣症候を起すに至らざる時期がある。さう云ふ所から見ると自然に來るか云ふ風な身體の多少の異常は、潜伏性ビタミンB 缺乏状態の一つの現はれであるかも知らない、此點は尙ほ研究を要する。

よく賣藥等にビタミンB劑を食慾減退にいゝとか、或は便秘にいゝとか、廣告して居るものもあるが、總ての食慾減退又は總ての便秘に無論之が效を呈するものではないが、さう云ふ風なもの、中に斯様なビタミンB缺乏の場合に效を呈するものがあるかも知れない。

—(終)—

權威者による最新醫學の紹介

『臨牀醫學講座』刊行に際して

現代日本醫學の發達は實に驚異に値すべきものでありまして、之が業績の發表は數百の單行書・雜誌を以てしても尙これ足らざるの盛大を示しつゝある事は邦家の爲め寔に慶賀に堪えない處であります

金原商店は此の隆んなる醫界の裡にあつて微力を出版奉公に竭しつゝある事は一に諸先生の御眷顧に依るものとは云へ、また自ら願て衷心欣快に堪えない次第であります

○ 弊店は曩に『月刊臨牀の日本』及『週刊醫界展望』の二大雜誌を發行して醫界の速報に務むると共に一方權威ある成書の出版と相俟つて聊か學術進歩の爲めに寄與し來つたのであります、然しながら最近時の趨勢を見るに是等兩者を以てしても尙ほ未だ足らざる状態でありまして則ち成書は完璧なるも出版までに時日を要する爲め急に應じ難く、雜誌は輕快なるも動もすれば斷片的の不備を免れざる缺陷あり、こゝに成書の内容にして而かも雜誌の輕快を持つ謂はゞ單行書のスピードアップせるもの、必要を痛切に感ずるのであります

素より成書の必要、雑誌また不可缺であります、此の兩者の中間的存在こそ今日の醫界にとつて最も待望される出版ではないかと信ずるのであります

之を例へば時事問題として新に内務省から健康保険診療科目と定められた『人工氣胸療法』或は今次警視廳にて施行したる『麻疹の血清療法』の如き、又補習的記事としては『最近の胃炎療法』或は『血尿の診療』等の如き興味ある題目に就て各科それらの權威者に懇請して、其の豊富なる知識を平明なる談話體に速記し、今日の大學講座そのまゝを極めて簡易なる小冊子に壓縮し之を速に且つ廉く普及せんとする事は刻下の急務であり、願て出版者の責務であると信ずる次第であります、弊店が敢て『臨牀醫學講座』を計畫せる事も實に如上の意に外ならないのであります

既に弊店が此の企畫を發表するや各方面の權威者より絶大なる御賛同を得、忙中特に本講座の爲めに講演を快諾せられた事は衷心より感謝に堪えない處であります

醫學の發達は實に日進月歩、新治療・新藥・新器械等枚舉に遑なく、しかも年々歳々醫師の増加は漸く醫學經營の困難を加へんとする秋に當つて是等を選滞なく知悉せん事は時間的にも經濟的にも決して容易なる業に非ず、弊店は此の意義ある企圖に依つて醫家諸君が愈々その蘊蓄を深め自力を止揚し、益々治病濟民の道を講ぜられん事を期待して止まないものであります、敢て諸先生方の御支援を仰ぐ

金原商店主 金原 作 輔 謹白

〔御承諾を得たる講演諸大家の一部〕

癌の早期診断と療法	稻田龍吉教授	近代の化學戰	福井信立教官
腦溢血の診断と療法	西野忠次郎教授	内科醫の外科的腹部疾患 注意すべき	鹽田廣重教授
血尿の鑑別と其の療法	高橋 明教授	丹毒の鑑別診断と療法	遠山郁三教授
産褥熱の治療法	川添正道博士	題 目 未 定	安藤畫一教授
主要傳染病の早期診断	高木逸磨教授	血清化學 實地醫學への應用 の進歩	三田定則教授
蛔蟲病十二指腸蟲病の診断	宮川米次教授	扁桃腺肥大とアデノイド	久保猪之吉教授
題 目 未 定	小野寺直助教授	化學的療法趨勢の一斑	佐藤秀三教授
腎臓炎の食餌療法	佐々廉平博士	各種毒素の豫防的應用	細谷省吾助教授
胃潰瘍の診断と療法	南 大曹博士	膿尿の鑑別診断と療法	北川正惇教授
蟲様突起炎の早期診断法	青山徹藏教授	精神病患者の一般診察法	三宅鐵一教授
蟲様突起炎の内科的治療	坂口康藏教授	乳兒人工榮養の最近の趨勢	栗山重信教授
結膜炎の診断と治療	石原 忍教授	題 目 未 定	和田徳次郎教授
狭心症と其の療法	大森憲太教授	耳科疾患と全身症狀	増田胤次教授
消化不良症 及乳兒腸炎の 診断治療	唐澤光徳教授	痛腫の放射療法	中泉正徳教授

〔御承諾を得たる講演諸大家の一部〕

題目	未定	飯塚直彦教授
結核患者の食慾増進と盗汗の療法	平井文雄教授	
妊娠	早期診断法と特にツォンデック アツシヨハイム氏法實施法	篠田 紘博士
各種畸形の治癒成否	高木憲次教授	
アミノ酸の栄養的價值	古武彌四郎教授	
疫痢と赤痢	熊谷謙三郎博士	
醫事法制の誤り易き諸點	山崎 佐博士	
季節と精神變調	丸井清泰教授	
人工氣胸療法	熊谷岱藏教授	
化膿菌による皮膚疾患と其の治療	太田正雄教授	

— 以下續刊 —

〔刊後下以・願諸承接〕

旬刊
— 臨牀醫學講座 —



□ 内容の厳選 千百の目次を並べた一流雑誌でも真に讀みごたへある好篇は僅に一、二であつて頁數や誌代の多いのが、よい雑誌とは言はれない、その意味で本講座には無駄がない

□ 讀書の容易 一部三十錢乃至七十錢送料二錢・切手代用一割増、書物の大きさ四六判ポケット入、一冊三十頁乃至七十頁平均一時間にて讀了し得、往診の途上に診療室の寸暇に最適

□ 選擇の自由 各冊とも分賣でありますから、讀者は自由に自己の欲する卷數を選擇、購買し得ることが出來ます

□ 特別購讀料 然しながら各冊分買は實際には比較的高價となり且つ送金等に種々御面倒も生じますので、毎號御購讀者に限り特別廉價提供の方法を講じ半ヶ年(十八冊分送料共)前金五圓・一ヶ年(三十六冊分送料共)前金九圓の特別購讀料を以て御便宜を計ることに致しました、假りに毎號五十錢平均と假定すれば十冊分代金五圓で、十八冊を得ることとなり十八冊分代金九圓で實に三十六冊を購讀し得ることとなる譯であります、御利用を御薦め致します

昭和十年七月廿五日印刷納本 昭和十年八月一日發行	臨牀醫學講座 第一日發行	定價 本號に限り 金四十錢 半ヶ年分(十八冊)金五圓 一年分(三十六冊)金九圓	著者 烏蘭順次郎 發行者 金原作輔 印刷者 守岡功 東京市本所區船橋一ノ廿七 印刷所 西原印刷株式會社	發行所 株式會社 金原商店 東京店 東京市本所區湯島切通坂三〇 電話(小石川) 四三二〇 大阪店 大阪市西區江戶堀上通三三 電話(土佐堀) 五九三三 京都店 京都市上京區丸太町橋六三 電話(上) 四一六三 振替口座大阪 二九六一九
-----------------------------	-----------------	--	---	--

馬越藥學博士創製
藤谷慶學博士監製

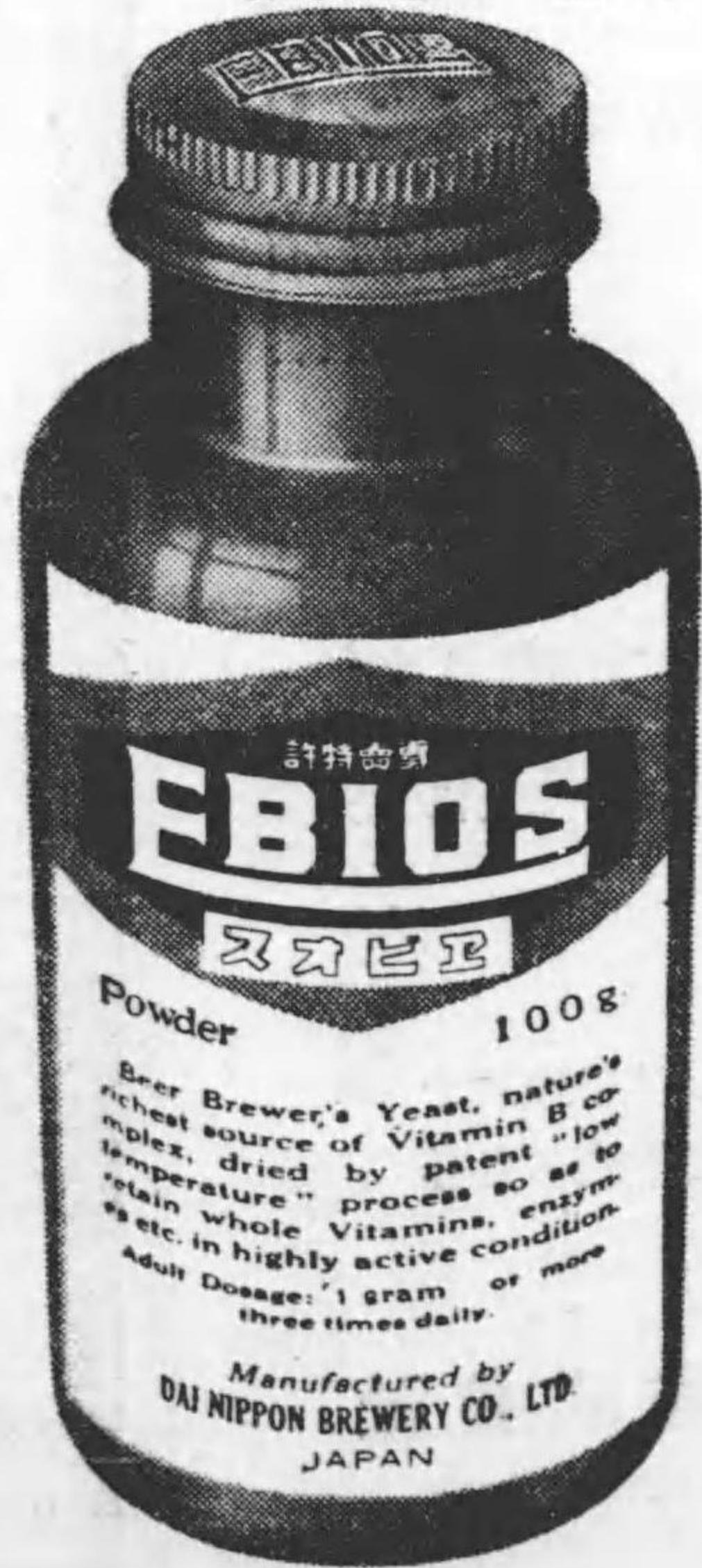
強力でも最も経済的
ビタミンB剤

エビオス

国際標準検定法に仍てエビオス中に含有する抗脚氣ビタミン力價を試
験せる結果に據れば、一〇〇瓦中實に一八〇〇……二七〇〇單位を含有
し、市販の何れの脚氣末にも遜色なきのみでなく、或種のものに數倍す
る強度を有することが分りました。

斯く強力價を有するに拘らず、エビオスは價格頗る低廉で、その力價よ
り比較する時は市販の脚氣末中最も安價であります。

苟しくもVB剤の御
處方に際しては少量
でしかも経済的なエ
ビオスの御利用が患
者の負擔を軽減し得
る事實を看過し得な
いのであります。



錢十七円……………瓦〇〇一
錢十五円三……………瓦〇五二
円 六……………瓦〇〇五
錢十五円十……………瓦ロキ一

社會式株酒麥本日大
店商邊田阪大・京東

ETI

Beriberol

脚氣栄養新劑

ベリベロール

(月江氏強力ビタミンB剤)

V・B界の最高峯として劃期的に躍進せる本劑は其の眞價既に廣く
實地醫家の確認せらるゝ處然も價格は最低廉にして
(一) 治療效力の優越 (二) 使用量の僅少 (三) 配合禁忌の皆無
と愈々品質は向上し注射液は無痛となり麻醉薬を含有せざるが故に
「脚氣衝心の救急的B大量注射療法」の目的に最適なり

適應症

脚氣、乳兒脚氣の治療及豫防
妊娠阻及妊娠の經過、授乳期中のウイ
タミンB缺乏、ベラグラ、卵巣脱落症、
乳兒便秘、小兒消化不良症、一般便秘、
其他一般營養として糖分分泌機能を亢進、
酵素を賦活し、食欲を増進、筋肉の疲勞
を防止し恢復す

(包裝種類)		末		100瓦		500瓦	
粉	2.500瓦	100瓦	500瓦	100瓦	500瓦	100瓦	500瓦
錠劑	100瓦	500瓦	2.500瓦	100錠	500錠	100錠	500錠
液劑	500瓦	100cc	500cc	500瓦	100cc	500cc	100cc
濃厚液	10cc	5cc	10cc	10cc	5cc	10cc	5cc
注射液	1.1cc	6cc	12cc	50筒	12筒	50筒	12筒
注射	3cc	6cc	12cc	50筒	12筒	50筒	12筒
	5cc	5cc	10cc	50筒	10筒	50筒	10筒
靜脈用	10cc	5cc	10cc	50筒	10筒	50筒	10筒
	20cc	5cc	10cc	50筒	10筒	50筒	10筒
純ベリベロール	1瓦	5瓦	10瓦	1瓦	5瓦	10瓦	10瓦
" 十倍散	10瓦	50瓦	100瓦	250瓦			
" 錠劑	50錠	100錠					
" 坐藥	5本	10本	50本				

所 張 出 社 本 本
上 條 二 丸 島 市 都 京 京
町 島 中 市 岡 福 社 區 橋 京 市 京 東
FR-49

社會式株藥製ムウチラ

オリザニン



ORYZANIN

ビタミンBの最高標準
効力一定、効果確實

脚氣一般及ビタミンB
缺乏に因る栄養障碍諸
症の治療と豫防に……

衝心型及重症脚氣の救急
療法には十倍強力オリザ
ニン注射液の應用を推奨
す……………

末、錠、液、エキス、注射液及十
倍強力オリザニン注射液の各種

東京・室町 三共株式会社

60
1364



終